

北九州エアターミナル株式会社

I 法人の概要（平成 29 年 4 月 1 日現在）

1 所在地

北九州市小倉南区空港北町 6 番

2 設立年月日

平成元年 5 月 1 日

3 代表者

代表取締役社長 片山 憲一

4 資本金

3,524,000 千円

5 北九州市の出資金

1,000,000 千円（出資の割合 28.4%）

6 役員員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	13 人	0 人	1 人	12 人
常 勤	4 人	0 人	1 人	3 人
非常勤	9 人	0 人	0 人	9 人
社 員	16 人	0 人	2 人	14 人

7 市からのミッション

市等との連携による路線誘致等、利用者数の増加に向けた取組を進め、安定的な財務状況を維持し、公共性の高い空港ターミナルビルを安全かつ快適な空間として、航空会社や航空旅客に提供する。

また、路線の拡大等、航空会社の動向に合わせ、的確な施設の増強や改造を行い、市等との連携による路線誘致に繋げる。

さらには、空港ターミナルビル内を活用し、イベントや展示を行い、地域のにぎわいの場としての役割も果たしていく。

II 平成 28 年度事業実績

1 航空旅客

今期の日本経済は、企業収益や雇用・所得環境に改善の動きが見られ、緩やかな回復基調で推移した。

航空業界においては、政府のインバウンド政策の推進やアジアを中心とした格安航空会社（LCC）の相次ぐ就航等により訪日外国人客が増加した。

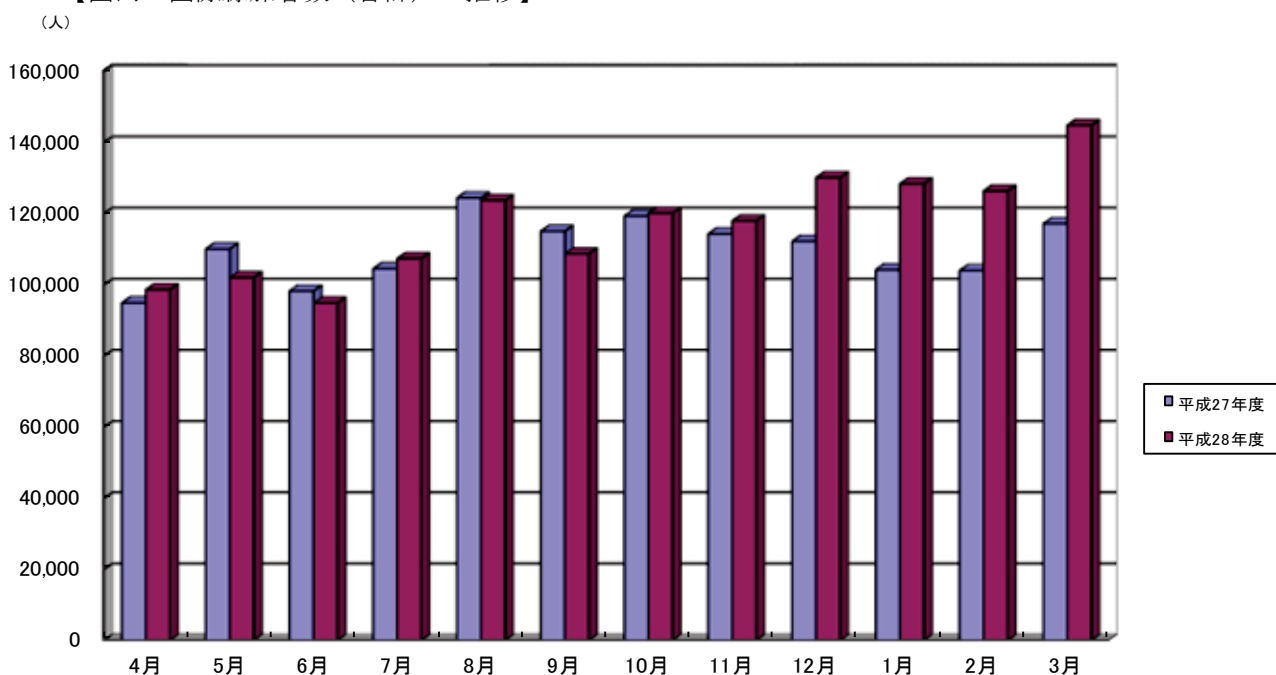
このような状況のもと、当北九州空港においては、国内線では、東京（羽田）線は日本航空が前期の 10 月 25 日から 1 往復減便となったことに加え、スターフライヤーの大規模な整備運休により、提供座席数は前期比 95.6%と減少したが、年間旅客数は約 1,242 千人（前期比 99.9%）で

約 2 千人の減と、微減にとどまった。就航 2 年目を迎えた名古屋（小牧）線は、年間旅客数は約 62 千人（前期比 123.6%）で約 12 千人の増となったが、利用率が伸び悩み、3 月 26 日から 1 往復減便となった。定期路線にチャーター便を加えた年間国内線旅客数は約 1,304 千人（前期比 100.7%）で、約 9 千人の増となり、開港以来、初めて 1,300 千人を超え、過去最大となった。

国際線は、国際線定期路線が約 2 年 7 ヶ月ぶりに就航した。天津航空が運航する中国（大連）線が 10 月 30 日に就航し、旅客数は約 11 千人となった。また、12 月 1 日にジンエアーが運航する韓国（釜山）線が就航し、旅客数は約 35 千人となった。あわせて 12 月 13 日にジンエアーが運航する韓国（仁川）線が就航し、旅客数は約 27 千人となった。チャーター便では、韓国（襄陽）・韓国（務安）に連続チャーター便が運航した。定期路線にチャーター便を加えた年間国際線旅客数は、約 98 千人（前期比 433.6%）で約 75 千人の増となった。

この結果、国内・国際定期路線にチャーター便を加えた年間総旅客数は約 1,402 千人（前期比 106.4%）となり、開港以来、初めて 1,400 千人を超え過去最大となった。

【国内・国際線旅客数（合計）の推移】

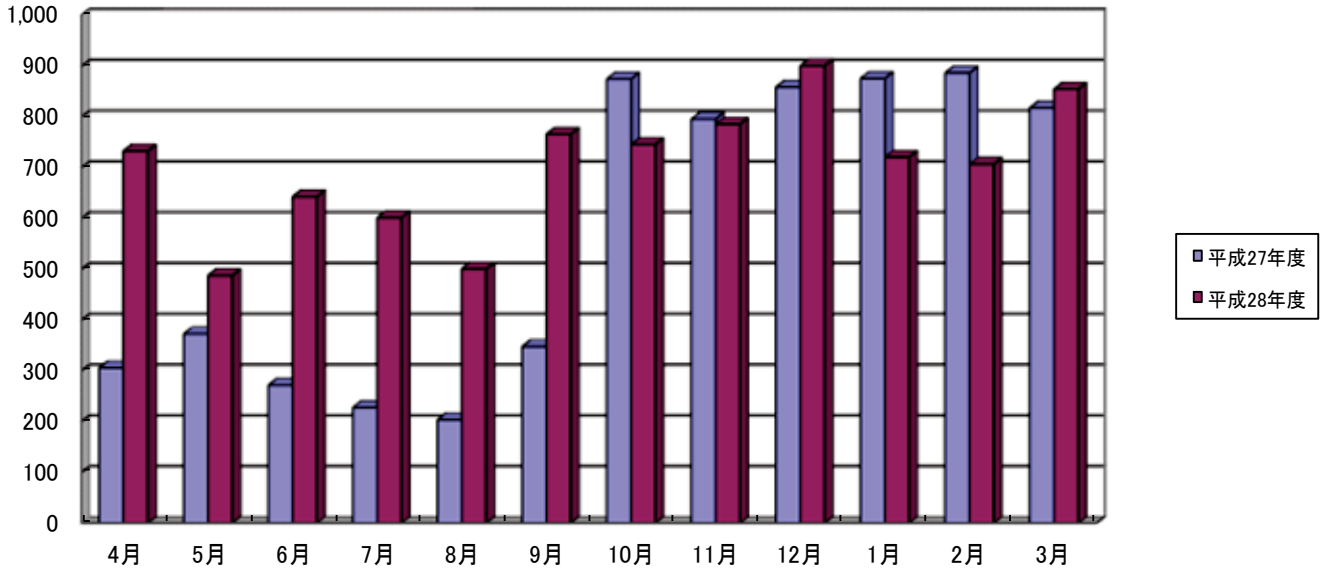


2 航空貨物

国内航空貨物の年間取扱量は、航空貨物代理店の移行期間が終了し、約 6 千トン（前期比 152.6%）となった。また国際航空貨物は、唯一の定期便であった台湾→北九州→成田線が 1 月末をもって運休となり、年間取扱量は、約 2 千トン（前期比 83.5%）となった。

【国内・国際線貨物取扱量（合計）の推移】

(トン)



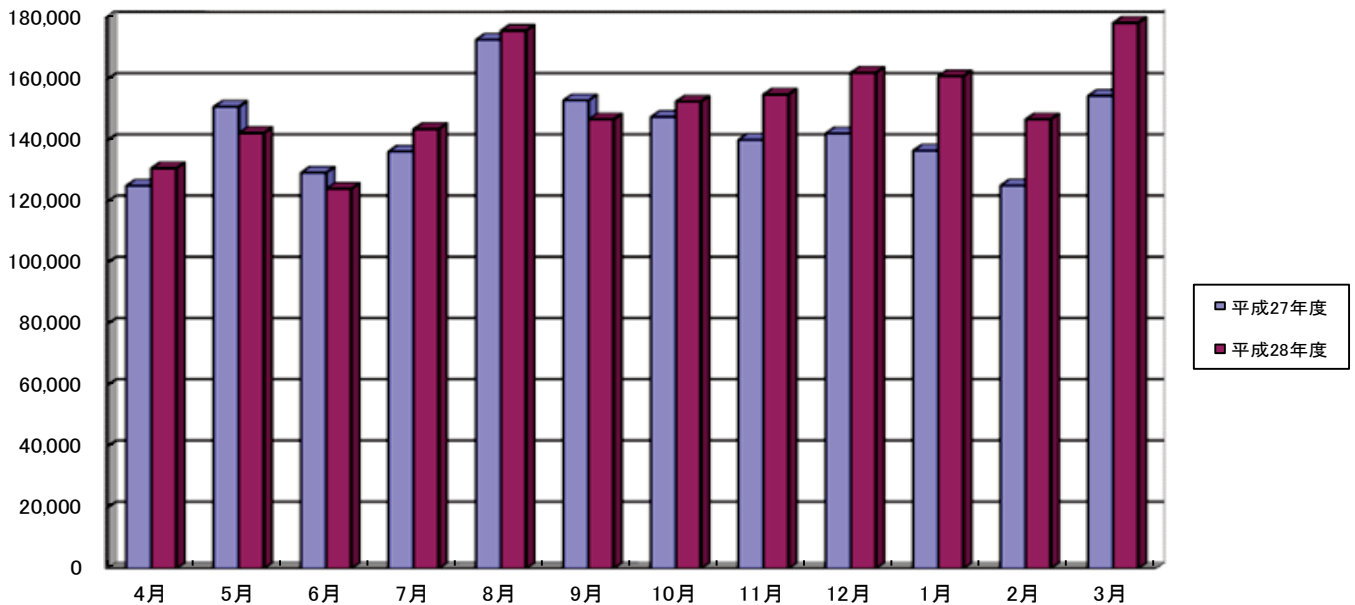
3 旅客ターミナルビル来館者

航空旅客に対して館内での快適な一時を過ごしていただくとともに、航空旅客以外の来館者の集客を図るため、空港周辺の自治体をはじめ、関係団体や関係者に対して、館内での作品展示やイベント等の開催を呼びかけるとともに、当社主催の四季折々を感じさせる多彩なイベントや作品展示会等を実施し、旅客ターミナルビルの「賑わいづくり」に取り組んだ。

年間のターミナルビル来館者は約1,819千人（前期比106.1%）となった。12月9日には、開港からの来館者の累計が2千万人となり、記念式典を開催した。

【旅客ターミナルビル来館者数の推移】

(人)



【イベント実施状況】

開催時期	主 な イ ベ ン ト 名
4月	JAPAC写真展、田川地区 神幸祭PR
5月	グリーンパーク「春のバラフェア」PR展示、宮地嶽神社 菖蒲まつりPR展示
6月	県立筑豊高校ウェディングドレスPR展示、七夕飾り
7月	小倉祇園まつりパネル展、小倉競馬場PRブース
7月～8月	ナイトトリップ in 北九州空港（2回開催）
8月	わっしょい百万夏まつり絵画展、夏休みカブトムシ・クワガタ展、 チャンピオンズカップ感動の写真展、出張！環境ミュージアム
9月	「JAL飛行機の絵」作品展示、北九州空港まつり
10月	チャンピオンズカップ感動の写真展、ゆくはし遺産絵画展、 しいたけ 原画展、沼楽奉納演舞・春秋太鼓演奏会
11月	北九州空港菊花展、北海道物産展、空港おいしいまつり、 フレンズ幼稚園クリスマスソング披露
12月	「池坊」華空会 初冬の花展、しの武おに画展
1月	ぜんざい振る舞い、陶芸協会 作品展示、 県立筑豊高校ウェディングドレスファッションショー、 フラワーアレンジメント作品展、フィルムコミッションパネル展示
2月	ふぐ雑炊振る舞い
3月	11周年感謝祭
通 年	豊前街道新鮮市

4 テナント売上増に向けた取組

入店者研修等の各種研修を実施しテナント従業員の能力向上を図った。

また、テナント会店長会議において、航空会社の利用状況や、チャーター便の運航状況等を共有し、販売効率を高める努力を行った。

さらに、テナント会と共同で、「新春鏡開き ぜんざい振る舞い」等を開催し、お客様への日頃の感謝を込めたイベントを実施した。

5 施設整備等

国際線定期路線の就航に合わせ、入国審査カウンター増設工事、国際線共用カウンター共用チェックインシステム及びデジタルサイネージシステム導入工事などを行った。

6 経営状況

当社の経営については、国際線定期路線の就航に伴い、便数や旅客数が増加したことから、施設使用料収入等が増加し、当期売上高は約800百万円で前期と比較し約66百万円の増収となった。

売上原価、販売費及び一般管理費の合計は、施設の老朽化に伴う修繕費の増加や、国際線定期路線の就航に伴い施設や設備の維持管理費が増加したこと等により、約742百万円で前期と比較し約44百万円の増加となった。また営業外収益は約29百万円となった。

以上の結果、税引前当期純利益は約87百万円で、当期純利益は約60百万円となった。

Ⅲ 平成 28 年度決算

1 貸借対照表(総括表)

平成 29 年 3 月 31 日現在 (単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	596,886,697	【流動負債】	114,913,099
現金・預金	516,028,140	買掛金	614,258
未収入金	65,362,255	未払金	39,480,455
商品	311,407	リース債務	4,420,110
貯蔵品	790,967	未払費用	2,008,500
前払費用	9,476,242	未払法人税等	26,578,900
繰延税金資産	4,917,686	未払消費税等	7,281,600
		前受金	25,355,566
		預り金	542,630
【固定資産】	4,040,166,665	預り保証金	5,596,080
(有形固定資産)	3,729,451,382	賞与引当金	3,035,000
建物	3,636,217,063	【固定負債】	389,156,200
構築物	51,284,989	預り敷金	28,496,400
工具器具備品	30,536,037	預り保証金	45,342,640
機械装置	229,129	長期リース債務	5,075,916
車両運搬具	11	退職給付引当金	8,167,163
リース資産	8,540,210	預り建設協力金	175,000,000
建設仮勘定	2,643,943	資産除去債務	111,284,955
		長期繰延税金負債	15,789,126
(無形固定資産)	7,564,383	負債合計	504,069,299
電話加入権	124,984	純 資 産 の 部	
水道施設利用権	1,006,875	【株主資本】	4,138,266,772
供給施設利用権	6,432,524	資本金	3,524,000,000
		利益剰余金	614,266,772
(投資その他の資産)	303,150,900	その他利益剰余金	614,266,772
投資有価証券	302,850,900	繰越利益剰余金	614,266,772
出資金	300,000	【評価・換算差額等】	▲ 5,282,709
		その他有価証券評価差額金	▲ 5,282,709
		純資産合計	4,132,984,063
資産合計	4,637,053,362	負債・純資産合計	4,637,053,362

2 損益計算書(総括表)

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日 (単位:円)

科 目	金 額	
I 売 上 高		799,532,694
売上高	28,546,025	
家賃収入	278,423,393	
管理費収入	192,226,566	
設備使用料収入	274,032,810	
広告料収入	26,303,900	
II 売 上 原 価		5,487,176
売 上 総 利 益		794,045,518
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		736,811,558
営 業 利 益		57,233,960
IV 営 業 外 収 益		28,722,668
受取利息	9,753	
受取配当金	2,236,000	
雑収入	26,476,915	
V 営 業 外 費 用		104,706
雑損失	104,706	
経 常 利 益		85,851,922
VI 特 別 利 益		13,732,000
保険金収入	13,732,000	
VII 特 別 損 失		12,500,000
雪害修繕費	12,500,000	
税 引 前 当 期 純 利 益		87,083,922
法人税、住民税及び事業税	29,634,543	
法 人 税 等 調 整 額	▲2,105,357	27,529,186
当 期 純 利 益		59,554,736

IV 平成 29 年度事業計画

北九州空港が 24 時間運用の海上空港であるという特色を活かし、北九州地域の九州・アジアの空の玄関口として、人・モノ・サービスの流通拠点として、より一層飛躍・発展するように取り組んでいく。

1 航空旅客

国内線については、名古屋（小牧）線は、認知度向上を図るため、航空会社や行政及び団体と連携をとり、引き続きPRやキャンペーンを実施する。7月4日から約5年ぶりに路線復活となる沖縄（那覇）線（夏季運航）は、通年化や来年度以降の運航継続に繋げるため、航空会社や行政及び団体と連携をとり、PRを実施する等、集客を支援する。

国際線については、28年度に就航した3路線について、航空会社や行政及び団体と連携をとり、PRやキャンペーンを実施し、認知度向上を図るとともに、引き続き外国人案内人を雇用し、館内案内等の充実化を図る等、インバウンド旅客の利便性の向上を図る。あわせて、行政や団体と連携をとり、便数の増大、路線の拡大、新規航空会社の誘致を目指し、関係機関への積極的な要望活動を行う。

2 航空貨物

航空貨物については、行政や団体と連携をとり、国際定期路線の復活に向け、新規路線の誘致を行う。また、滑走路3千メートルへの延伸実現に向け国への要望活動等を行う。

3 ターミナルビル来館者

ターミナルビル来館者への事業については、四季折々の草花を旅客ターミナルビル内に展示する等、来館者に憩いの場を提供するとともに、空港に親しんでいただく事業として、各種イベントや社会科見学等の施設見学、出前航空教室を実施する。

4 テナント売上増に向けた取組

店員の意識改革や接客マナーの向上等を目的とした研修会を実施し、空港利用者へのサービスを改善し、売上高の維持・向上を図る。

5 施設整備

施設整備については、狭隘化している国際線施設の増設や施設改修及び機能強化の検討を行うとともに、老朽化した設備等のリニューアルを実施し、旅客ターミナルビルの利便性と快適性の向上を図る。

V 平成 29 年度予算

1 収支予算書(総括表)

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日 (単位: 千円)

収 入	営業収入	売上高	29,000	
		家賃収入	310,000	
		管理費収入	200,000	
		設備使用料収入	325,000	
		広告料収入	26,000	
		小 計	890,000	
	営業外収入	雑収入等	27,000	
		小 計	27,000	
	合 計		917,000	
	支 出	営業費用	売上原価	6,000
			人件費	122,000
一般管理費			128,000	
減価償却費			220,000	
水道光熱費			83,000	
租税公課			53,000	
地代			25,000	
管理委託費			170,000	
		小 計	807,000	
営業外費用		雑損失等	0	
		小 計	0	
合 計		807,000		
収 入 - 支 出		110,000		

VI 役員名簿

平成 29 年 7 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
代表取締役社長	片山 憲一	
代表取締役専務	平床 司	
常務取締役	武末 直樹	
取締役	甲斐 庸恭	苅田町 副町長
〃	前原 典幸	TOTO株式会社 総務本部長
〃	岩井 尚彦	新日鐵住金株式会社 八幡製鐵所 総務部長
〃	廣渡 健	九州電力株式会社 執行役員 北九州支社長
〃	庄山 和利	西鉄バス北九州株式会社 代表取締役社長
〃	東 俊明	日産自動車九州株式会社 取締役常務執行役員
〃	岩片 和行	ANAホールディングス株式会社 グループ経営戦略室 事業推進部 マネジャー
常勤監査役	奥 久志	
監査役	川本 惣一	株式会社西日本シティ銀行 取締役副頭取 北九州・山口代表
〃	灰田 利明	行橋市 総務部長